

# 嚥下治療センター便り

No.1

Center for Dysphagia of TOHOKU University Hospital

## <嚥下治療センター始まりました！>



(左から香取幸夫センター長、加藤健吾ディレクター、小山重人副センター長)

日本社会の高齢化に伴い、東北大学病院でも高齢者の方に高度医療を提供する場面が増えてきたと実感される方も多いと思います。

他の機能と同様に、高齢化に伴い嚥下機能も低下（老嚥と呼びます）してきますが、加齢だけで嚥下障害を発症することはむしろまれで、手術、肺炎、骨折、高度侵襲、低栄養、薬剤、義歯不適合など、何らかのきっかけで嚥下障害を呈することがほとんどです。逆に言えば、高齢者の嚥下障害は加齢に加えて何らかの複合的な要因が重なって発症する例が多く、診断や対処に苦慮することが少なくありません。また高齢発症の嚥下障害でもALSの初発症状だったなど、一概に「歳のせい」とするのは危ない例もあり、多角的な嚥下機能評価と原因診断が必要です。また、嚥下障害を生じる要因が多岐に渡るといふ事は、多方面からの包括的な治療やサポートが必要であることも意味します。

東北大学病院では、昨年7月、摂食嚥下障害に対して包括的に診断と治療を行う嚥下治療センターを設置しました。嚥下治療センターは耳鼻咽喉・頭頸部外科、リハビリ科（肢体不自由、内部障害）、歯科（咬合回復科、口腔機能回復科、顎顔面口腔再建治療部）、リハビリ部、歯科衛生室、栄養管理室、看護部から構成され、これらの診療科、診療部門が共同して摂食嚥下障害に対して診断と治療を行います。リハビリや口腔ケアに加えて、嚥下障害に対する手術（嚥下機能改善手術、誤嚥防止手術）や口腔内装置（口蓋接触補助床、軟口蓋挙上装置など）の作成も積極的に行っています。嚥下治療センターの外来窓口は耳鼻咽喉・頭頸部外科内にあります（嚥下外来）。嚥下障害の原因によらず対処致しますので、嚥下障害を疑ったらお気軽にご紹介下さい。診察後、必要に応じて歯科、リハビリ科、リハビリ部、栄養管理室と情報を共有し、連携して嚥下障害に対処致します。嚥下障害が明らかで、訓練も必要な場合は併せてリハビリ依頼もお願い致します。



嚥下多職種カンファレンス  
木曜16:30～ 西10 SGT室にて  
ディスカッション、情報共有

耳鼻科の嚥下外来は週三回（月、水、金）患者さんを受付しています。各科から直接予約取得可能ですので、お手数ですが予約取得の上ご紹介下さい。内視鏡診断を行いますので、全身状態が安定している方は（ストレッチャー等でも）耳鼻科外来を受診して頂くと正確な診断につながりますが、ICU入室中、カテコラミン使用中、高濃度酸素投与中など、全身状態が不安定な方は院内往診でも対処致します。

(ディレクター 加藤健吾)

嚥下治療センターで1回目の勉強会が行われました！

今後も、定期的に勉強会、広報誌を計画しております。  
ご興味のある方はぜひご参加ください！！

<文責> 嚥下治療センター広報部  
口腔機能回復科 小宮山  
顎顔面口腔再建治療部 互野  
歯科衛生室 佐藤